第８号
2014 年 3 月 7 日
（平成 26 年 3 月 7 日）

ソムリエの風

特定非営利活動法人
奈良まほろばソムリエの会会報紙

発行　特定非営利活動法人
奈良まほろばソムリエの会
広報グループ
〒630-8333　奈良市中新屋町
23 番地 中江ビル 302 号室
あすなろ行政書士事務所内

インプットから「アウトプット」へ舵を切ろう！

NPO の使命は「社会貢献」です

講演の様子

当会が NPO 法人化して、早くも１年が経過しました。

この１年に当会の知名度は飛躍的に向上し講師やガイドなど、さまざまなリクエストをいただいています。

NPO の使命は、社会貢献です。当会が行う対外活動の現況と将来展開についてお知らせします。

天理市制 60 周年事業に採用！

名誉なニュースです。今年の「天理市制 60 周年記念連携事業」に、当会が「奈良まほろばソムリエと行く　天理のいいとこ再発見！バスツアー」（2 コース）を応募したところ、採用決定となりました。

本年中に、天理の奥深い魅力が分かるバスツアーを実施します。

県下短大への非常勤講師派遣

現在、定期的に講師を派遣している近鉄「楽・元気プラザ」（学園前）、県「奈良まほろば館」（東京・日本橋三越前）のほか、県下の短期大学からも講師派遣の依頼をいただいています。

本年 9 月からの後期課程で、全 15 コマの「奈良の伝統行事」という正規の授業です。

複数の会員で対応すべく、準備中です。

奈良「地理・地名・地図」の謎

当会広報グループおよび理事有志で監修作業を進めてまいりました新書本『奈良「地理・地名・地図」の謎』（実業之日本社）が、このほど「じっぴコンパクト新書」の１冊として、発刊されました。

「1 年のほとんどが雨という土地がある」「若草山焼きの発端は野焼き行事か」など、奈良が面白くなる知的ガイドブックです。

会員の皆さんにも、特別価格で斡旋いたします。

また本書に基づいた連続講座の展開も準備中です。

山焼きをガイド（若草山麓で）

新たなバスツアーの企画が続々

昨年 12 月に奈良朱雀高校・奈良交通とコラボして実施したバスツアー「文楽演目ゆかりの地を訪ねる」（2 回実施）は大入り満員で、大好評をいただきました。

これを受け同社からは新企画の依頼があり、現在、その実現に向け準備を進めています。

文楽ゆかりの地を訪ねるツアー

奈良のために、何ができるか

冒頭にも書きましたが、NPO の使命は社会貢献です。

「当会が自分に何をしてくれるのか」と期待するのではなく、奈良を愛する皆さんの知識と経験をアウトプットして「当会のために、ひいては奈良のために、自分はどんな貢献ができるのか」を考え、行動していただきたいと思います。

（NPO 法人
奈良まほろばソムリエの会
専務理事　鉄田　憲男）

グループ活動紹介

交流グループでは、記紀万葉と史跡等探訪の両サークルが、それぞれ独自の活動をしています。

記紀万葉サークルでは、記紀や万葉集などの研究発表を行い、翌月には現地を訪れ、見識と交流を深める活動を行っています。

平成25年度は、9月「佐保・佐紀を巡る」、10月「山辺の道」での屋外活動、11月「葛城王朝は、存在したのか」の研究発表をし、翌12月には現地を歩きました。

記紀万葉Ｃ 12月「葛城の道」

「葛城王朝は、はたして大和王権につながるか？」疑問はあるものの楽しい一日でした。

今後の定例会スケジュールとして、4月12日屋内活動(テーマ未定)、5月24日屋外活動(テーマ未定)、6月14日屋内活動「記紀における吉備」、7月12日屋外活動「吉備路バスツアー(計画中)」を予定しています。

史跡等探訪サークルでは、ソムリエの耳学問から現地現物を知り見識を高めることを目的に、現地ウォークを開催しています。

平成25年度は、9月に「幻の大仏鉄道の遺構を訪ねて」、11月には、「紅葉の浄瑠璃寺・岩船寺・当尾の石仏を訪ねる」を実施しました。

史跡等探訪Ｃ11月「浄瑠璃寺・当尾」

今後のスケジュールは4月中旬に「巨勢の道を訪ねて」(巨勢寺跡の椿と水泥古墳内部見学)、5月中旬に「世尊寺・吉野路寺を訪ねて」を計画中です。

両サークルとも参加者募集の案内を、ソムリエの会ホームページ(http://stomo.jp/)に掲載いたします。みなさんのふるってのご参加をお待ちしております。

（交流Ｇ　小林 俊夫）

「2013 納会」を開催！

平成25年12月21日（土）午後1時から奈良ロイヤルホテルにおいて、25年の総括と26年の飛躍に向けたイベントとして「2013納会」を開催しました。当日は、第Ⅰ部102名、第Ⅱ部58名のご参加をいただき、盛会裏に終了しました。当日の模様は、翌日の産経新聞奈良版に掲載していただきました。

第Ⅰ部では、啓発グループの企画により会員の研究成果を発表する「第1回研究発表会」と、「雅楽･舞楽鑑賞会」を行いました。

研究発表会では、加藤英之さんから「奈良時代の建築の変遷」、鉄田専務理事から「食の文化史」を、露木監事から「入鹿の首塚」をそれぞれ発表していただきました。

露木監事の研究発表

鑑賞会では、天理市のグループ「雅坊」による雅楽「越天楽」、舞楽「蘭陵王」の公演を鑑賞しました。

奈良に関わりの深い伝統芸能ですが、間近で見る機会が少なく、会員の皆さんも興味津々。雅楽のあと仮面をつけた舞楽「蘭陵王」が始まると大いに盛り上がり、会場は興奮のるつぼと化しました。

第Ⅱ部では忘年会を兼ねた懇親会を行い、交流を深めました。

舞楽「蘭陵王」

今回実施したアンケート結果を踏まえ、今後も充実した企画を行ってまいります。

なお、「研究発表会」は、発表を聞く皆さんの学習(インプット)だけではなく、外部の講演会等において講師として話ができる(アウトプット)スキルを身につけていただくことを目的としています。次回以降、多くの皆さんの積極的な研究発表をお待ちしています。

（大山 恵功）

会員紹介

◆ソムリエを目指して勉強中

寺が好きで、奈良を知ってるかなぁ～なんて気持ちで初年度の試験を受け不合格。奈良＝寺だけじゃなく、文学、古墳、地理、歴史等など…知らないことだらけの自分に唖然。その後数年は受験せずに過ぎましたが、ご縁があって小北理事長を講師に迎えた奈良ロイヤルホテル従業員向けの「奈良まほろば歴史講座」受講をきっかけに再度勉強し始めました。

講座で使われる画像は実際に出掛け撮ってきたものだと伺い、ガイドブックでしか知らなかった場所へ足を運ぶようになり、今まで意識しなかった奈良への関心も出てきました。

その後、一般の受講も始まり、多くの方と一緒に学んできました。そんな時､友の会が NPO 法人となり、入会いたしました。現在、講座で一緒に学ぶ堀田さん、垣本さん、米山さん、大島さんと共に保存・継承グループで活動しています。

（左から）垣本さん、大西さん、堀田さん、小北理事長、米山さん、大嶋さん

一人だと、ついつい行き慣れたところになるのですが、ソムリエの諸先輩方と活動し、あらためて現地を歩き、自分の目で見る楽しさを感じています。後をついていくばかりですが、新たな視点で学べるようになってきたかなと感じています。

また、啓発グループの勉強会にも参加し、貴重なお話を聴講できたり、普段見ることができないものを見せていただいたり、少し難しいと感じるものもありますが、入会したことで奈良を学ぶ上での大きなメリットを感じています。

奈良は多くの観光客が訪れます。ホテル勤務ということもあり、中南和の社寺などの質問を受けることも多いですが、抽象的な問いかけもあったり…それでも何とか答えたいと思っています。そのためには自分の知識も豊富にしないと…せっかく来られた方に、もっと奈良を好きになり、奥深さを知ってもらいたい。自分自身もっと奈良を知り、もっと好きになって、胸をはっておススメはここです！なんて台詞を言ってみたい！

ソムリエまでの道のりはまだまだ遠いですが、自分のペースで学んでいけたらいいなと思っています。諸先輩方々！よろしくお願いします！

（大西　斉子）

それぞれの万葉集

■清明

わたつみの　豊旗雲に　入日さし
今宵の月夜　清明己曾　巻 1-15

中大兄皇子の有名な三山歌に対する 2 番目の反歌です。集中屈指の名歌の一つと言われています。海上の雄渾な情景がそのまま伝わってくる歌で純粋に楽しみたい歌ですが、いろいろと論争の多い歌で、数ある歌の中で一番私のなかで存在の大きな歌です。

まずは、この歌の反歌性の問題。家持と言われる編者自身が「反歌不似」と編纂時に疑問を呈しています。それ以外に「伊理比紗之」の読み方、「己曾」の文法的解釈などがあるようですが、最大の謎は「清明」の読みかたです。「サヤケカリ」、「サヤケクアリ」、「アキラケク」等々、私の調べた範囲では 15 通りの読み方がありました。「清」も「明」は意味も用例も親しんだ漢字であるだけにこの論争を調べる度に万葉学の奥行きを感じ､また万葉集の訓読に努力された先学に感謝の念を感じざるを得ません。

私にはどの説が正しいか分かりませんが、何人かの方が主張しておられるように「清明」という文字自身が重要ではないかと思っております。「清明」は古来より大切にされていたようで､『紀』にも邪心のない澄みきった清らかな心という意味の「清明心」という言葉が使われています。四月になれば二十四節季の一つである「清明」があり現代の生活にも息づいております。三輪の狭井神社前の池の畔には「清明」の石碑があります。三島由紀夫が『奔馬』の執筆に際し、三輪山で三日間の参籠した後、感得した気持ちをこの二字で表したのを記念して建てられたのだそうです。ちなみに私の息子の名前は「清明(せいめい)」といいます。

（沖田　拓司）

私のおすすめレアスポット

■飛鳥の謎の石切り場

飛鳥地方の石造物には、通称“飛鳥石”と呼ばれる石が多量に使用されています。角閃石黒雲母石英閃緑岩(かくせんせきくろうんもせきえいせんりょくがん)が正式名称です。石英閃緑岩の中でも、飛鳥でとれ、黒雲母の斑点という特徴をもつ岩石の通称が飛鳥石です。石舞台のあの巨石や、ミステリアスな酒船石、愛嬌のある亀石もしかりです。

みなさんは、石舞台のあの巨石を切り出した石切り場だとの伝承がある場所をご存知でしょうか？石舞台古墳から冬野川(ふゆのかわ)に沿って東に向かうと細川谷の奥に上(かむら)という集落があります。その集落の薬師堂から谷筋を数十メートル上ったところに不動明王像が彫られた岩場が在り、巨岩から滝が落ちています。実はここが石切り場との伝承がある場所ですが、うっそうとしており一人で行くには少し勇気がいります。周辺を見渡すと、大小の切り石が散見できますし、それらの石を採ったと思われる巨石の岩肌が露出しています。詳しい調査などは行われておらず、確固たる証拠はありませんが、石舞台の巨石がここから切り出されたかもしれないと想像するだけでわくわくしてきます。どうやってあの巨石を切り出したのだろうか？1.3ｋｍも離れている石舞台までどんな方法で運んだのだろうか？イカダを組んで冬野川の水運を使ったのだろうか？次々と湧き出てくる謎を考えていると、もうすっかり気分は古代にタイムスリップ。みなさんも、一度謎の石切り場をのぞきに行かれてはどうでしょうか？暑い季節なら、格好の清涼の場ですよ。**（露木　基勝）**

癒しの工芸品 華倭里（かわり）　株式会社カキモト　垣本 麻希（保存継承グループ）

～万葉のふる里の奈良や各地の情景、古来から伝わる文様などを
モチーフにした五感で感じる工芸品のデザイン・営業企画を担当～

信貴山の麓、自然豊かな田園風景が広がる三郷町に佇む町の鉄工所「カキモト」。創業明治４０年より、村の鍛冶屋として開業し、農工具を製作しておりました。現在は、主に精密機械や工作機械などの金属部品を製作しております。ものづくりの先人から受け継いだ職人達の優れた技術力、最新のレーザー加工、国内メーカーの部材を使用し、こだわりと癒しを追及した金属工芸品をお届けしております。

Gallery Kawari　〒636-0821　奈良県生駒郡三郷町立野北 2-19-8　URL http://www.kawari.net

＜編集後記＞

NPO 法人化から１年が経ち、さまざまな活動が本格化してきました。「ソムリエの風」ではこれからも様々な活動を紹介してまいりますので、よろしくお願いします。

編集に当たった広報グループメンバーは以下のとおりです。（あいうえお順）

窪田・小林(誠)・雑賀・沢田・豊田(敏)・辰馬・永井・中村・橋口・廣岡・二上・古川・増戸・松森・米山

特定非営利活動法人　奈良まほろばソムリエの会

事務所所在地：〒630-8333　奈良市中新屋町 23 番地 中江ビル 302 号室
あすなろ行政書士事務所内

ホームページ：http://stomo.jp/

メールアドレス：info@stomo.jp

つれづれ日記（ブログ）：http://nara-stomo.seesaa.net/

HP の QR コード